

環境審議会（H26.10.28）における主な意見等（抜粋）

委員の意見	事務局の発言
<p>【小川委員】</p> <p>○休耕農地は増えているか。</p> <p>○有機肥料を利用した農地対策は大変な労力を要すると聞いているので、高齢農業者などに対する対策も必要ではないか。</p>	<p>○休耕農地が増えているかは把握していない。</p> <p>○今後、検討していく。</p>
<p>【池田委員】</p> <p>○H26.2 の COD、全窒素、全りんが極端に高かった理由は何か。</p> <p>○COD の値がここ数年上昇傾向にある理由は何か。</p>	<p>○発電のための導水が影響している可能性があるのではないかと考えている。</p> <p>○原因がよくわからないが、気象要素も関係しているのではないかと考えている。このため、降雨・融雪時の導水の水質を、次期計画の中で把握していきたいと考えている。</p>
<p>【中島委員】</p> <p>○湖沼法の「湖辺環境保護地区」として指定して水草の復元を図っていくことは検討したか。</p> <p>○「流出水対策地区」の対策として、他の地区と比較して特に力を入れていくものは何かあるのか。</p>	<p>○保護するまでに水草帯の復元が進んでいないので、まずは水草帯を復元させることを優先したいと考えている。</p> <p>○直接流域内の市街地及び農地が多い地区を「流出水対策地区」として指定しているが、地域の特性がなく、第4期計画と同様の施策となっている。</p>
<p>【小川委員】</p> <p>○山間地で生活している高齢者少数世帯については、費用のかかる下水道接続をせずに浄化槽で対応することでもよいのではと考えている。</p>	<p>○考慮していきたい。</p>
<p>【石原特別委員代理】</p> <p>○COD の目標値の設定が前期までの流れからすると後退しているように見えるので、詳細な説明が必要ではないか。</p>	<p>○説明を十分にしていきたい。</p>
<p>【浦野委員】</p> <p>○農地対策の目標面積が農地全体の面積に比べると少ないように思われるが、他の湖沼に比べて農地系の影響は大きくないのか。</p>	<p>○野尻湖は他の指定湖沼のような富栄養湖ではないので比較するのが難しい。農地対策については意識啓発の意味合いが濃い。</p>
<p>【平林委員長】</p> <p>○透明度について、年平均値ではなく、季節を限定して評価した方よいのではないか。</p> <p>○湖底の貧酸素については目標値設定の検討はしたか。</p>	<p>○季節変動があるが、わかりやすい指標として年平均値で評価することにした。</p> <p>○野尻湖においてはそれほど問題になっていないので設定はしなかったが、環境基準として設定できれば目標値を設定していきたい。</p>